

平成 20 年 3 月 4 日

各 位

会社名 株式会社コロワイド
代表者名 代表取締役 蔵人 金男
(コード番号 7616 東証第一部)
問合せ先 経理部長 久松 寛
(連絡先電話番号 045-274-5970)

連結子会社における特別損失の発生及び業績予想の修正に関するお知らせ

当社の連結子会社である株式会社ジクト(本店所在地:宇都宮市、代表者名:代表取締役社長 木村 環)におきまして、添付資料のとおり特別損失の発生及び平成 20 年 2 月期通期業績予想の修正を行いましたので、お知らせいたします。

尚、平成 20 年 3 月期当社連結業績に与える影響につきましては、明らかになり次第、改めて公表させていただきます。

以上

(添付資料)



平成 20 年 3 月 4 日

各 位

株 式 会 社 ジ ク ト
代表取締役社長 木 村 環
(J A S D A Q ・ コード 9901)
(U R L <http://www.zict.co.jp>)
問 合 せ 先 取 締 役 太 田 一 義
TEL (0 2 8) 6 2 5 - 0 0 3 8

特別損失の計上及び平成 20 年 2 月期通期 (連結 ・ 個別)
業績予想の修正に関するお知らせ

平成 20 年 2 月期において計上する見込みとなりました特別損失についてお知らせするとともに、平成 19 年 10 月 15 日に当社「平成 20 年 2 月期中間決算短信」で公表した平成 20 年 2 月期 (平成 19 年 3 月 1 日 ~ 平成 20 年 2 月 29 日) の業績予想を下記のとおり修正いたします。

記

1 . 特別損失の計上とその内容

当社及び連結子会社において 1,092 百万円の特別損失の追加計上を見込んでおります。

(1) 投資有価証券の評価損

当社の所有する投資有価証券 (上場株式) の中で、平成 20 年 2 月 29 日時点の時価が取得原価に対して著しく下落した銘柄について 787 百万円の評価損を計上いたします。

(A) 平成 20 年 2 月期の投資有価証券評価損の額	801,567 千円
(B) 平成 19 年 2 月期の純資産の額 (A / B × 100)	12,759 千円 (- %)
(C) 最近 5 事業年度の経常利益の平均額 (A / C × 100)	95,610 千円 (838.4 %)
(D) 最近 5 事業年度の当期純利益の平均額 (A / D × 100)	0 千円 (- %)
参考 (E) 平成 20 年 2 月期中間期末の純資産の額 (A / E × 100)	3,858,437 千円 (20.8 %)

注 : (A) の金額には中間期で計上した評価損 13,699 千円が含まれています。

(添付資料)

(2) 減損損失

今回の決算処理において、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき、当社営業店舗 10 店舗について固定資産及びリース資産の減損損失 231 百万円を計上する見込みです。

(3) 固定資産除却損

今回の決算処理において、7 店舗の店舗設備の除却損 28 百万円を計上する見込みです。

(4) その他特別損失

今回の決算処理において、子会社（株式会社エムワイフーズ）の製品自主回収による損失 25 百万円と店舗賃借差入保証金に対する放棄損失引当損 20 百万円を計上する見込みです。

2. 通期業績予想の修正

1) 連結通期業績予想

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A)	22,265	1,564	1,433	1,506
今回修正予想(B)	21,678	1,465	1,363	502
増減額 (B - A)	587	99	70	1,004
増減率 (%)	2.6	6.3	4.9	66.7
前期実績 (平成 19 年 2 月期)	16,943	294	113	8,479

2) 個別通期業績予想

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A)	22,264	1,401	1,310	1,389
今回修正予想(B)	21,678	1,301	1,239	406
増減額 (B - A)	587	100	71	983
増減率 (%)	2.6	7.1	5.4	70.8
前期実績 (平成 19 年 2 月期)	16,934	92	39	8,878

3. 連結業績予想の修正の理由

売上高については 2 月末に閉店予定の不採算店舗 5 店舗の閉鎖を 1 月末に 4 店舗 2 月初旬 1 店舗、前倒しで行ったこと、相次ぐ食品企業の不祥事による消費者の食への不安の高まり、飲酒運転に関する規制強化、ガソリンの高騰等による飲食消費への影響から全体的に下期後半での客数の伸びがなかったことにより当初予想を下回り、計画に対して 2.6% の減少となる見込みです。

売上高の減少に伴い営業利益が計画に対して 6.3% の減少、経常利益が計画に対して 4.9% の減少となる見込みです。

(添付資料)

今回の決算処理において特別損失として 1,092 百万円を追加計上する予定であり、当期純利益は計画に対して 66.7%の減少となる見込みです。

上記の特別損失の内容は「1. 特別損失の計上とその内容」で説明のとおりです。

投資有価証券評価損	787 百万円
減損損失	231 百万円
固定資産除却損	28 百万円
その他特別損失	<u>45 百万円</u>
計	<u>1,092 百万円</u>

4. 個別業績予想の修正の理由

売上高については2月末に予定していた不採算店舗 5 店舗の閉鎖を1月末から2月初旬に前倒しで行ったこと、全体的に下期後半での客数の伸びがなかったことから当初予想を下回り、計画に対して 2.6%の減少となる見込みです。

売上高の減少に伴い営業利益が計画に対して 7.1%の減少、経常利益が計画に対して 5.4%の減少となる見込みです。

今回の決算処理において特別損失として 1,067 百万円を追加計上する予定であり、当期純利益は計画に対して 70.8%の減少となる見込みです。

上記の特別損失の内容は「1. 特別損失の計上とその内容」で説明のとおりです。

投資有価証券評価損	787 百万円
減損損失	231 百万円
固定資産除却損	28 百万円
その他特別損失	<u>20 百万円</u>
計	<u>1,067 百万円</u>

以 上